

■ テーマ

「世界基準を日常に」

一本気で日常を変える

■ 守備への要求

守備の原則「ボールを奪う」・・・インターセプト
そのために、「同一視・周りを観る・先に考える」＝判断の材料を収集するための

観ることの重要性！

→マークの原則
チャレンジの優先順位
チャレンジ&カバー

☆ボールホルダーへのチャレンジ

- チャレンジがあるからカバーが必要＝組織ではなく
→どこが危険か、誰が危険を感じるかが大切
→そのために予測すること
- 守備のスプリント
アプローチの速さ・帰陣の速さ

■ 攻撃への要求

攻撃の原則「ゴールを奪う」・・・シュートを打つ
そのために、「周りを観る・先に考える」＝判断の材料を収集するための

観ることの重要性！

→サポート
マークを外す
ボールに寄る

☆パス（正確性）

- 意図あるパス
強く蹴ることで選択肢が広がる。
パスはタイミング良く、人に出す。
動いている人への足元へ強いパス

☆判断

- 常に観ておく
- 状況把握
- 予測
- 決断

☆サポート（関わり）

- 状況判断
- いつ・どこに・どのように関わるか。
 - ・ゴールへ向かうサポート
 - ・ボールを失わないサポート
 - ・距離（相手のプレスの強さによって変化）

- スピーディーなサッカー（プレースピードをあげる）
- ☆動きながらのテクニック（止める・蹴る・運ぶ）

○タイミング

正確なテクニック・判断の速さ・的確なサポートがリズム（規則性）を作り、攻撃の変化へとつながる。

- ＝正確なテクニックがタイミングを生み出す。
- ON・OFF お互いのインフォメーションが必要
- 引き出すアクションがあり、ボールが動く

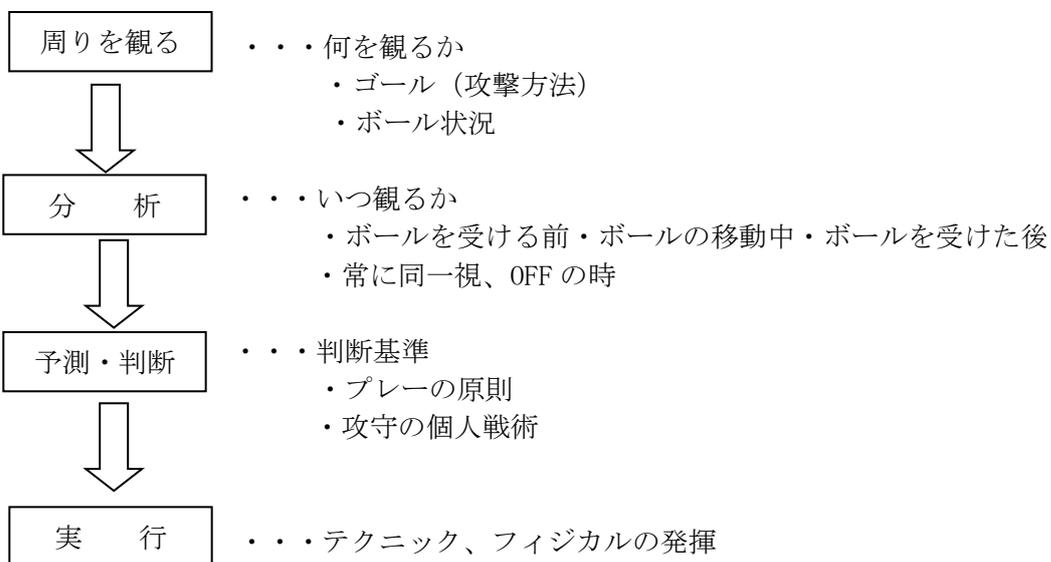
○ドリブル

突破のドリブル・・・パスの選択肢を持ちながら相手を変化させる。

時間を作る。（ためを作る）

状況に応じて使い分ける判断力

■観ることの重要性



■指導者として

☆自立したサッカー選手を育成する。

「論理的思考→自己判断→チャレンジ」の習慣化

そのために

- 基準を示す
- 常に思考を停止させない問いかけ「なぜ？」
- リスクチャレンジをさせる。
- 鍛える＝刺激を与える

常に要求・・・良いものはさらによいものに

ダメなものはだめ、理由を含めジャッジする

□振り返り

今年度、JFAB級指導者養成講習会に参加させていただき、数多くの実技・講義を通して「観ることの重要性」を一貫して指導していただいた。ピッチに立っている全ての時間「観る」「分析」「予測」「実行」のサイクルを意識してプレーさせることにより、世界基準のスピーディーなサッカーが確立でき、クリエイティブな選手を育成できる。そのために指導者は、「いつ観るのか」「何を観るのか」「どのように観るのか」を常に選手に基準を示し、問いかけていく必要がある。

当然個人の「止める・蹴る・運ぶ」スキルも向上させていくことが根底にはあり、そのスキルの上に「観る」ことにより、世界基準のサッカーに近づいていくとわかった。